

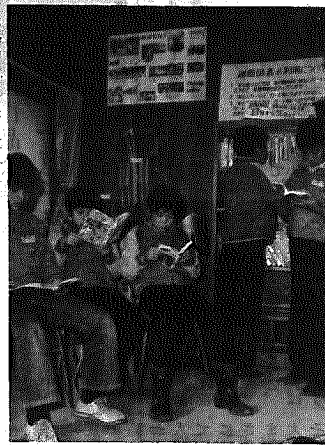
# 巡回図書のご利用を

## 半月一回配本

昨年からは、木津、二本木、小杉の四地区に巡回図書を行ってまいりましたが、おかげさまで地域のみなさんから好評がよく、利用も多くなりました。

今年度は、公民館図書、巡回図書の充実をはかるために図書予算を六二万円計上いたしました。

従って、巡回図書は、一地区巡回が半月に一度の配本、二地区巡回が二ヶ月に一度、三地区巡回が三ヶ月に一度の配本、公民館図書の利用増



大をはかるため、日曜、祭日も貸出したすことになり、巡回図書の配本数は、幼童向け図書と一般向け単行本百冊程度。

貸出時間 平日のみ、貸出時間午前八時三十分から午後四時三十分まで

巡回図書利用方法  
①本を借りるとき  
本の表紙に貸出しカードがありま

巡回地域	巡回図書設置場所	巡回期間
木津	農協支所	毎月二日から十五日まで
小杉	簡易郵便局	毎月十六日から三十日まで
二本木	農協支所	毎月三十一日まで

すのでそれを取り出し、部落名、氏名、借りた日を書いてください。カードは、カード箱に入れておいてください。

②本を返すとき  
カード箱から自分の借りた貸出しカードを取り出し返本日日を記入して本の裏表紙にある袋に入れ、本を本棚に納めてください。

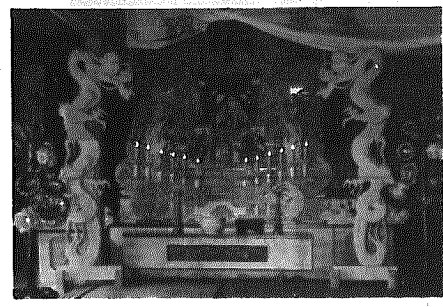
③巡回期間が過ぎて返本をするとき  
借りた本はなるべく巡回期間中にお返しください。また貸しは絶対によめてください。

期間中に返本できなかったときは、④のような方法か、直接公民館に本を届けらしてください。

### 小杉部落に生活互助会結成 葬式祭壇貸出

「あそこの家の葬式祭壇は立派なものだ。た二十数万円もしたか。な。どと聞かせる言葉である。昨年七月、小杉部落の会合で年々葬式祭壇の借上料がエスカレートして高くなり、豪華な祭壇を借上ける家庭も多くなってきた。このことを聞いて、同部落では、発起人を定めて、是非葬式祭壇を部落で備えつけてほしい」という要望が多くなった。

このことをうけて、同部落では、発起人を定めて、是非葬式祭壇を部落で備えつけてほしい」という要望が多くなった。



小杉生活互助会で貸出している祭壇

代表鈴木新太郎を昨年十二月結成した。葬式祭壇は、二セット（一セット二二五万円）を購入し加入者に貸付けることになった。

使用料は、七日間でわずか一万円（うち維持費四〇〇〇円、祭壇取付け、取はずし人夫費六、〇〇〇円）である。霊柩車、棺桶、骨堂など（五万円くらい）は、葬儀屋から借りなければならぬが、今までより数倍も安くあがり、元費節約、平等が保てるというもの。

運営は、小杉上、中、下の三部落に一名ずつの責任者と四、五名の役員をおき、祭壇の維持管理と、取り付け、取りはずしを行う。

このことを聞いた村内各部落でも生活互助会をつくりたいと個人会や部落長さんなどが小杉部落に問い合わせをした。見学が殺到しているという。

### 一八チームで 熱戦くりひろげる 早起き野球大会

このところ、早朝から連日、参加18チームでトーナメント戦を行い、その勝者と二回戦で負けたチームと再度戦って、決勝戦を行う方法を試している。また、午前七時から五月二十七日から六月末日まで毎週火・木・土曜日に午前五時三十分から七時まで、従来の野球大会と違った試合方法をとっているところがある。

このところ、早朝から連日、参加18チームでトーナメント戦を行い、その勝者と二回戦で負けたチームと再度戦って、決勝戦を行う方法を試している。また、午前七時から五月二十七日から六月末日まで毎週火・木・土曜日に午前五時三十分から七時まで、従来の野球大会と違った試合方法をとっているところがある。



早起き野球大会抽選風景

成人式のご案内  
成人になられました皆さんを祝うため、八月十五日成人式を行います。今年度の成人式対象者は、昭和二十九年四月二日から昭和三十年四月一日までに生まれたものです。村在任者には、後日ご案内いたしますが、村外に居住される方も参加できますので、ご連絡を願います。

書道教室  
参加を受けつけています。一、学習日 五月から三月まで毎月一回日曜日  
二、場所 横越村公民館  
一、講師 木津 保科正次先生  
一、内容 大筆の書法から小筆の書法まで  
初心者を中心に行っています。詳しいことは、公民館までおたずねください。

県民スポーツの日 横越村大会  
日時 6月15日  
会場 横越小、横越中体育館、横越中グラウンド  
日 会 種 目 バレーボール、ソフトボール、ボートボール、柔道、剣道、銃剣道他

麦林寺句碑讀仰  
日時 八月二十四日 午前九時  
場所 横越村公民館  
兼題 早、草茂る、虫千し  
誌、ポート(5句一組)五〇〇円  
入場券 六月末日  
選者 富田守、藤野松蔵、藤野角、五十嵐史、増田岳樹、青子、野一、郷沢空一、小林登作、久、藤名林、夫徳、江口真砂、伊藤泰利、鈴木堅太、東城嘉秋、真田流、堀内しづ子、高橋紅、夢、宗千子、小林、藤野子、阿部金、津山真樹、小杉竹生、当日発表  
兼題 句碑讀仰、横越村公民館、主権、横越村公民館、小阿賀吟社

### 随想

村内の各部落を散歩するとき、亡びつつある植物の意外に多いのに愕然とする。と共に閑な老人の郷愁は、この亡びゆく植物に限りない。未精と愛着を覚え、何となく悲運から救ってやれないものかと思ふ。

真竹(俗称唐竹)は、二、三年の間に殆んど絶滅したように、全国的に減少したものと推して、随分少ないものとなつてしまつた。何の変哲もない在来の種も年々失なわれてゆくようである。山茶花は、年々多くなつてゆく。

## 亡びゆく村の植物(上)

木津山 田正三

今の子どもの花を見た。ものが果して幾人あろうか。親戚用でなく、その上土い場所を必要とする植物である。どここの家庭でも栽培するところうけにはゆかないが、初夏の風物詩である紫の花を何と

てゆくようであるか、棒の力るのも情に乏しい。牡丹にお株を奪われた訳でもあるが、庭先にも、畑にも写葉の花を育てることが、近來珍らしくなつていきました。黄色の写葉を教室の花瓶に挿してくれた子どものことが想い浮ぶ。

在来種で、どこの庭先に、もあつた黄色い水仙も、いとも無難作りに取り除かれていってしまう。



かして部落に残したいものがある。

香を告げる雄雉の黄色の花を見ることも稀で、随分少ないものとなつてしまつた。何の変哲もない在来の種も年々失なわれてゆくようである。山茶花は、年々多くなつてゆく。